

第7回牧田中医学セミナー

テーマ： ～ 超高齢社会における醒脳開竅法の果たせる役割と可能性 ～

学校法人後藤学園・中医学研究所 所長

兵頭 明

【抄録】

今年の敬老の日を迎えるに当たって総務省統計局が9月15日に発表した65歳以上人口は3384万人、75歳以上人口は2415万人、そしてなんと80歳以上人口は1002万人となり80歳以上人口が初めて1000万人を超えるというものでした。

これからの時代は、全人的・総合的な角度からご高齢者、そして認知症の方に対して心と体に同時に優しくアプローチ・サポートをすることができる鍼灸治療、かつエコ医療を提供できる鍼灸師が求められることになるでしょう！全国1741の市区町村の約50%がこれからの認知症対策として「鍼灸治療に期待する」と回答していることをご存じでしょうか。財務省や厚生省がご高齢者および認知症の方に対する鍼灸治療のサポート効果と可能性に気がつけばきっと大喜びするはずです！

ところで、ご高齢者が急増しているわけですが2008年版の人口動態統計によると、2008年には脳血管障害の患者数は約137万人であったのが、東京オリンピックが開催される2020年には約287万人になるとの報告がなされています。すなわち2倍以上になるわけです。また2008年のデータによると65歳以上の寝たきり者は約32万人とされ、寝たきりの約40%、そして要介護者の約25%は脳血管疾患が原因とされています。

醒脳開竅法により脳血管障害の後遺症を軽減させ、ADLの改善をしっかりとほかることが、どのように寝たきり予防につながるのか、国が推進しようとしている「健康寿命の延伸」（2020年までに1年以上延伸が国の目標）にどのように貢献できるかを一緒に考えてみたいと思います。

今後は病院や鍼灸治療院だけではなく、在宅や高齢者施設での取り組みも今以上に重要となり必要になってまいります。このような時代的ニーズ、社会的ニーズ、医療的ニーズ、そして患者さんおよびそのご家族のニーズに応えるためにも、皆さんにはぜひしっかりと醒脳開竅法の考え方とスキルを修得していただきたいと思っております。